

特別講演

ベラルーシ文学における

Чернобыль как национальная тема белорусской литературы

チェルノブイリのテーマ

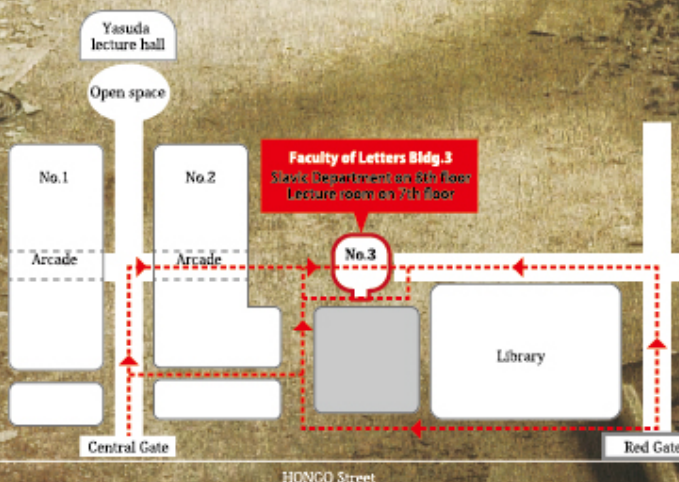
チェルノブイリ事故は、技術・モラル・政治・歴史・世界観などの点で多くの意味が解き明かされないままになっている。そうした意味の総体が焦点を結ぶのはベラルーシの歴史そのものが最初から担う悲劇性においてである。だからこそチェルノブイリは何よりもまず人文的なカタルシスとして解釈しなくてはならない。他方でそれは 20 世紀において国民意識を先導する形式として確立したベラルーシ文学の責務を大きくするものでもある。

日時：11月12日（月）17時～18時30分

講演者：イヴァン・アフアナシエフ（ゴメリ国立大学、ベラルーシ）
Иван Афанасьев (Гомельский ГУ)

会場：東京大学（本郷キャンパス）
文学部3号館7階スラヴ文学演習室

使用言語：ロシア語（通訳なし）



主催：東京大学文学部スラヴ語スラヴ文学研究室、
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、
科学研究費基盤 B
「ロシア・ウクライナ・ベラルーシの交錯
——東スラヴ文化圏の領域横断的研究」

連絡先：東京大学文学部スラヴ語スラヴ文学研究室
(slav.lecture@gmail.com)
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター
越野 (gkoshino@slav.hokudai.ac.jp)